

令和6年度（2024年度） 第3回社会教育入門講座 <事業報告>

I 事業の概要について

1 事業名

令和6年度（2024年度）第3回社会教育入門講座

2 開催日時

令和6年（2024年）7月30日（火） 15:30～17:00

3 開催場所

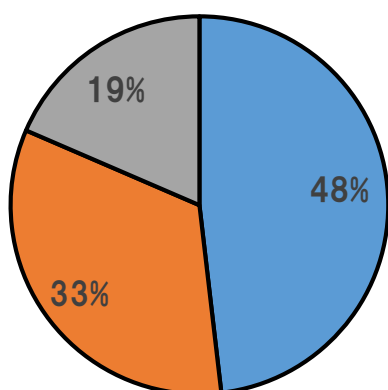
Web会議システム（Zoom）によるオンライン開催

4 参加人数

33名

5 参加者属性（区分/「社会教育主事」任用資格の有無/社会教育の経験年数）

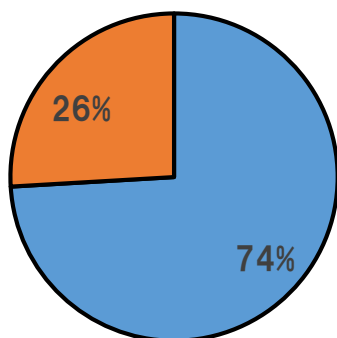
参加者区分



- 教育委員会社会教育担当行政職員
- 教職員
- 社会教育主事・社会教育主事補

(n=27)

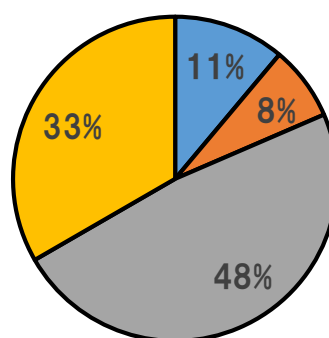
「社会教育主事」任用資格の有無



- 無
- 有

(n=27)

経験年数（社会教育）



- 2年～5年未満
- 5年以上
- 初めて担当する（今年度から）
- 未経験

(n=27)

(次のページへ続く)

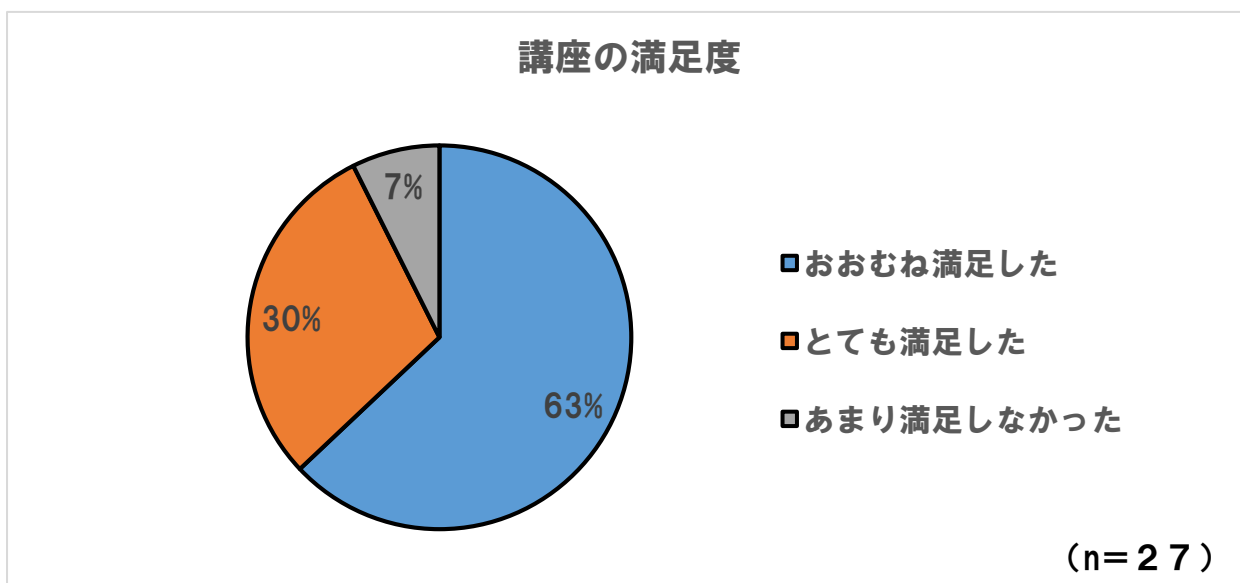
6 プログラム

15:20	15:30	16:30	17:00
入室	講義	質疑応答	閉会

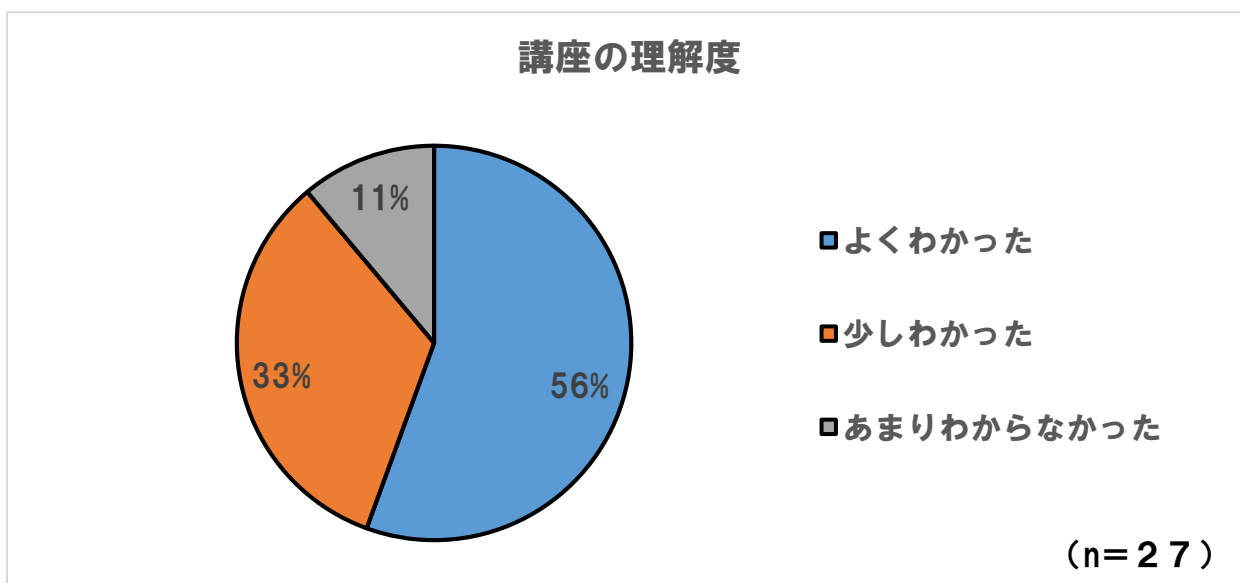
講義：社会教育施設の役割～図書館や博物館、その他の施設について学ぶ～
講師：北星学園大学 准教授 斎藤 仁史 氏

II アンケート結果

I 本講座の満足度について

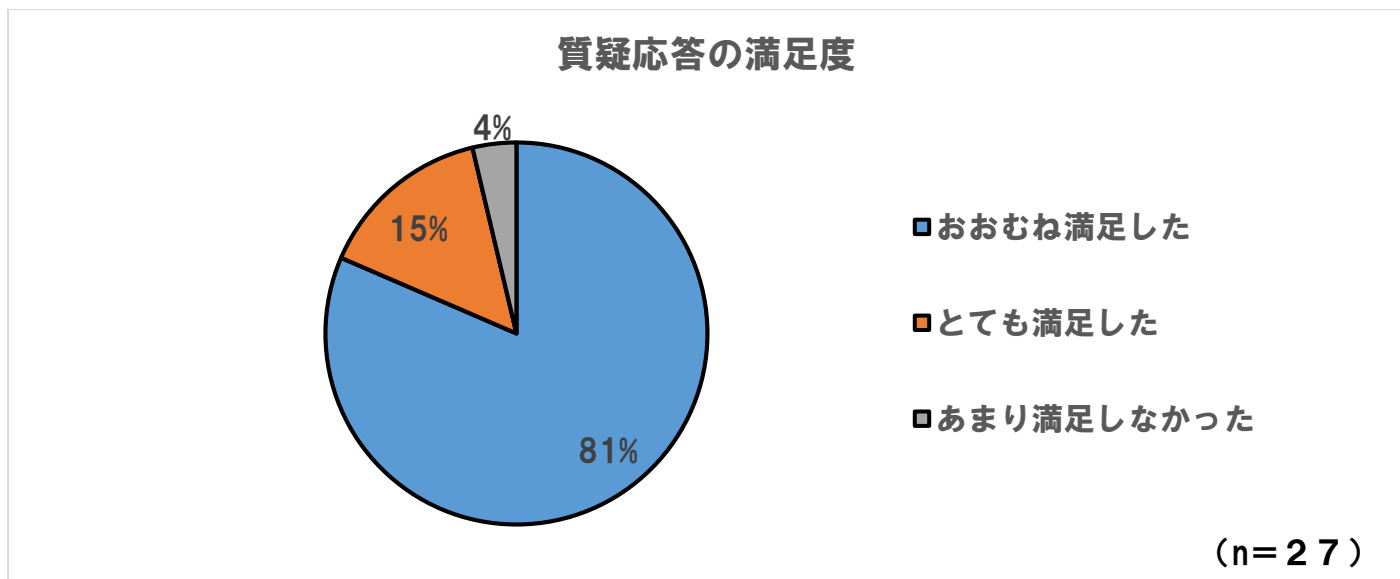


2 講義の理解度について

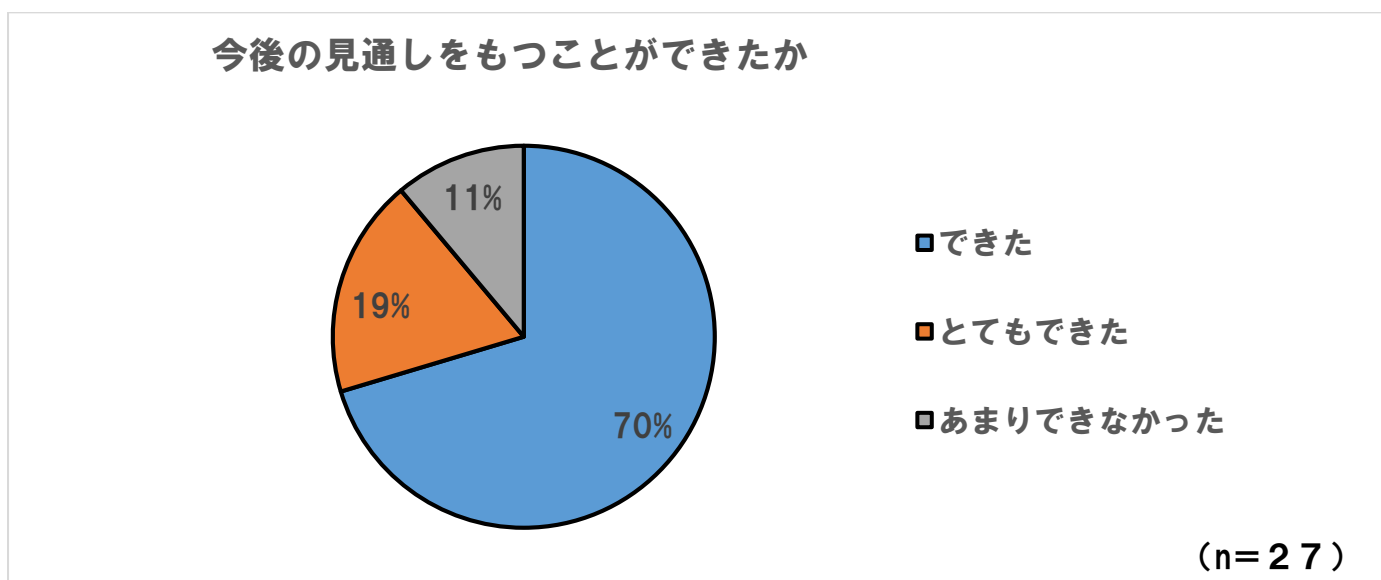


(次のページへ続く)

3 情報交流の満足度



4 講座全体を通して



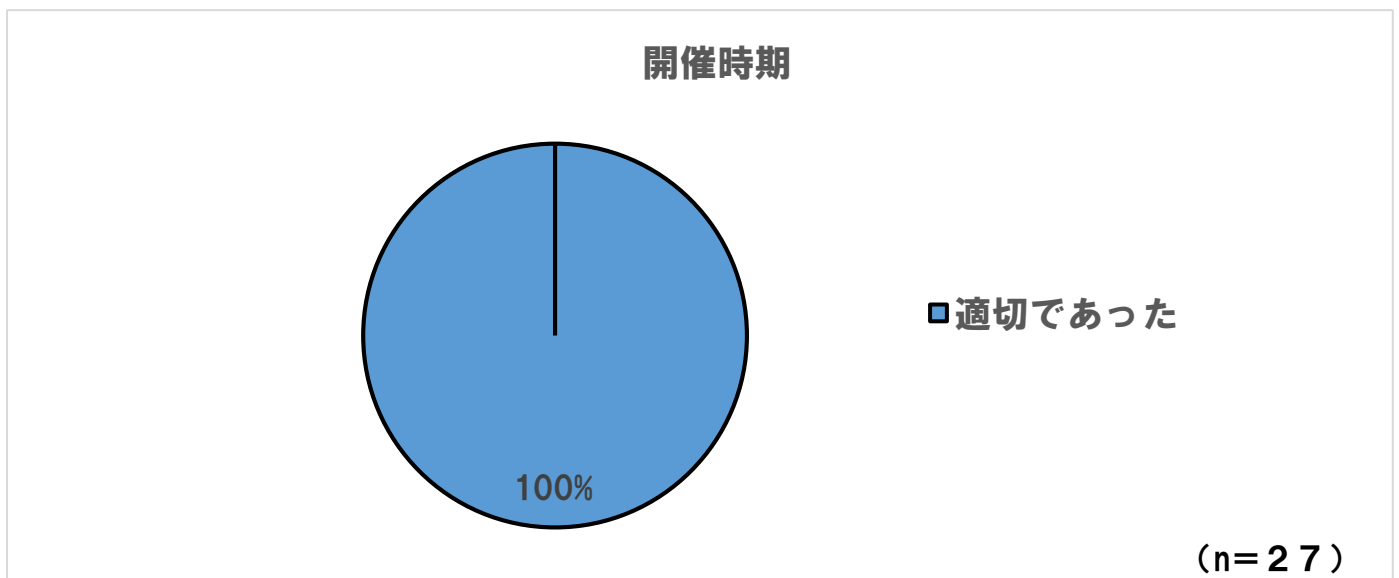
5 図書館や博物館の役割や今後の在り方について、印象に残っていること（自由記述）

- 学びを補助していくことが必要であること。
- 「情報の地産地消」というのは、まさに社会教育施設の役割だなと思いながら聞いていました。
- 住民が主体となっていくことが、重要である。
- 財政に厳しい自治体においては、地域住民に必要とされる施設でなければならないという点。
- いろいろな施設の在り方も次の世代に変わっていく事を知りました。
- 地域づくりを担う役割として期待されている点が印象に残りました。
- 生涯教育の学習意識の区分の話、偶発的学習。
- 図書館について。今は、財政的に厳しい地域も多く、貸出業務だけではなく、地域づくりに貢献していかなければ、自治体にとって不要な機関になっていってしまうということ。

(次のページへ続く)

- 地元を再認識できるような情報提供、発見へつながる活動について。
- これからの社会教育施設は地域づくりに貢献していくことが存在意義として求められる。
- 第四世代の図書館のあり方、住民参加型、記録に残すことの大切さ。
- 漂流物を拾う会、相模川を歩く会。
- 基本的な要素ですが、図書館や博物館が果たす役割について、よく理解できたと思っています。保存、記録、貸出など、それぞれの時代背景や他機関との関わりに於いて、様々な側面を持ち合わせるのが、社会教育の役割でもある事に気づかされます。わたしたち教員は、教育という言葉に一面的な捉え方をしてしまいがちです。そんな中、社会教育を学ぶことは、わたしたちの教育観を広げるだけでなく、その役割を学ぶことになるのだとわかったような思いです。今後も、社会教育について見識を深め、日々の教育活動の更新を続けていきたい気持ちになりました。
- 先生の紹介されていた「第三世代の博物館論」から発展させた「図書館の発展段階論」がとてもわかりやすかったと思います。
第1段階の情報資源の収集からはじまり、次世代にあたる第4世代の情報の生産、創造、構成要素の重心が施設や職員から学習者である市民に移っていくこと、その基本機能の重心が「学習支援」にあることが印象に残りました。
何度も出てきた「学習支援」が、本当にキーワードだと感じました。
- 地域と連動して、記録を継承していくことが、今後大切になっていくと感じました。「記憶はメディアで変えられていく」終戦時の天気についてのお話が印象的でした。情報社会の中で、記録の大切さと情報を適切に読み解く能力の育成がますます大事になっていくと思いました。
- これからの図書館は、住民の調査活動や著作活動を援助し、情報の地産地消を促進していく機関として期待されていることがわかった。

6 開催時期について



(次のページへ続く)

7 本講座を通して、感想や理解したこと、気付いたこと（自由記述）

- 主に図書館という視点では、「図書の貸出」だけではやっていけない理由がよくわかりました。自治体の財政難をどうにかすることはできないので、地域にとって、自治体にとって必要とされる施設を目指していかなければならないということ。生涯学習施設として、学習を援助する側に立ち、学習支援による地域づくりに貢献していくことの重要性を強く感じました。
- 図書館については、よく分からなかったが、本日勉強になった。
- 図書館史についての歴史は知る機会がなかったために、勉強になった。ほか、特に博物館の世代による解説や、過去に取り組まれている市民との共同調査、出版物に関するレクチャーは大変興味深く、また今後大いに参考としたい。
- 気付いたことではないのですが、我々のようなネパールの施設職員は社会教育主事としてどのように図書館などと連携していけばよいのかということは常々疑問として思っています。
- 博物館登録制度の改正で、あらゆる法人が設置する博物館が登録を受けることができるようになってよかった。講座を拝聴し、図書館の発達段階論（第1世代 収集施行→ 第2世代 保存施行→ 第3世代 利用施行→ 第4世代 創造施行）は納得できるものであった。今後、住民学習者が創造を巡らして情報を作り出していく第4世代に対して期待している。
- 9の回答と重なりますが、このことについては様々な場面で話合いがされている内容で、日野図書館の事例は大変参考になりました。
- 体験の価値が高まり、没入型、体験型の施設やイベントが人気となっていて、体験を提供できる博物館や体験施設は今後の展望が開けていると感じられますが、デジタル機器の普及により、紙媒体の情報収集がどんどん低下する中、図書館の今後のあり方に非常に興味がありましたが、中々理解が難しかったです。
- 斎藤先生が独自にまとめた「学習と教育の関係図」（最後の質疑でも取り上げられていました）が、とても理解しやすかったです。学習を援助する側として、教育を受ける学習者が意識を強く、高くしていけるような働きかけも必要だと、新たな視点をいただけたように感じます。
- 終戦の日の天気の話が印象に残りました。記憶が薄れないうちに、何らかの形で記録に残していくことが未来の子どもたちにとって、大切なことだと学びました。
- 生涯学習部門は財政難になると切られる可能性が非常に高い。だからこそ、住民にとって必要な施設になるようにしていかなければならない。
- 学習支援として、各施設と各種関係間および学校教育・社会教育との連携がますます重要であるように思いました。
- 財政不足や人手不足などの、問題がある中で、どうやったら市民の方に参加を促進できて、地域に結びつく機関になっていけるか、考えることが難しいなと思いました。
- 地元の風土について住民も一緒に関われる事業の企画をがんばりたいと思えました。
- 夏季休業中であること、プラントを活用しての申し仕込み、両輪が今回の参加を加速させています。結果、受講できてとても良かったと感じますので、今後も続けていきたいと思えます。プラントを用いて、魅力的な講座を今後も探していきます。
- これまでの経験を思い出すような内容もあり、講義を聞いて色々と納得する部分が多かったです。
- 参考になりました。
- このような機会に巡り会えて良かったです。
- ぜひまたお話を聞かせていただきたいです。

（次のページへ続く）

8 今後、当講座で取り上げてほしいテーマについて（自由記述）

- 各自治体の社会教育における好事例を紹介して頂きたいです。
- 社会教育を指導する者としての心構えや指導する上での基本技術。
- 公民館の役割と機能等について。
- 社会教育関係と博物館の連携事業など。
- 学芸員を対象とした講座。
- 学校教諭としては、質問にも挙がっていた学校図書館と公共図書館の連携はいつでも聞いてみたいテーマです。
（苫小牧市立図書館の活動は、なかなか先進的だと昨年度の学校図書館研究大会の発表を聞いて思っています）
- 日本全国で特色ある図書館の取り組み・実践例を是非取り上げていただきたい。
- 図書館について、法律の側面からもっと掘り下げた内容について学びたいです。
- 学校での読書活動と図書館について。
- 地域と図書館との繋がりを強めた例。読者が苦手とされる人を巻き込めた事例。
- コミュニケーションスキル、ワークショップ。
- 本日は貴重な機会を頂き、ありがとうございました。2点お願いがあります。
 - ①もし可能でしたら、本日のパワーポイント資料を頂きたいです。
 - ②先程質問に答えて頂いた、恵庭市の取り組みについて、連携における具体的な資料などがありましたら、頂きたいです。

講師 斎藤 仁史 氏 より

恵庭市立図書館と学校図書館の連携資料について

(1)「本と学校図書館と子どもたちをめぐる関係：恋する学校図書館」『広報えにわ 2004.6』所収

<https://www.city.eniwa.hokkaido.jp/material/files/group/13/20086629.pdf>

(2)「子どもいざなう学校図書館＊読書条例制定の恵庭市＊全小中に司書、常時開放 生徒がポップ、通信作り」『2024/07/09（火）北海道新聞』朝刊全道(教育・進学) 図表 16 ページ

(3)「恵庭市立図書館＊学校の端末で予約→翌日車でお届け＊読書文化育む配本システム＊恵庭北高も開始＊学校間で融通も」『2016/09/15（木）北海道新聞』朝刊地方(札幌近郊)図表 切抜 30 ページ

(4)「恵庭北高＊読みたい本 学校で予約＊道立高初 きょうから＊市立図書館が翌日配達」『2016/09/01（木）北海道新聞』朝刊全道(社会) 切抜 31 ページ

(5)「最短1日で他校の本も貸し借り＊「配本システム」好評＊市立図書館が開始＊授業活用円滑に」『2007/11/13（火）北海道新聞』朝刊地方(札幌近郊) 切抜 24 ページ

(6)「小学校でまず導入…貸し出し増＊専任学校司書 中学も全校配置＊恵庭 非常勤で5人採用」『2006/04/18（火）北海道新聞』朝刊全道(社会) 図表 切抜 31 ページ

注：上記(1)は、8月8日現在インターネットで閲覧可能でした。(2)～(6)は、公共図書館などに相談して、記事を読んでください。